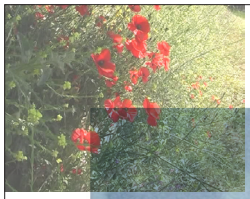

Klaus Wyborny Retrospektive

クラウス・ウィボニー

レトロスペクティヴ

［会場］

神戸｜神戸映画資料館

京都｜同志社大学寒梅館 クローバーホール

東京｜アテネ・フランセ文化センター

主催：アテネ・フランセ文化センター、神戸映画資料館、
同志社大学図書館、同志社大学今出川校地学生支援課

Klaus Wyborny Retrospektive

物理学者・数学者・音楽家でもある映画作家クラウス・ウィボニーは、映像とは抽象的で時空間に出現し消滅する何ものかであり、現実を記録するイメージではないと言っている。ウィボニーは自作を「時間における印象主義的」作品と呼ぶ。ポール・シャリッツに捧げた『西洋の没落のためのエチュード』を始めとする『大地の歌シリーズ』や劇映画『オープン・ユニバース』で使われるフィルム断片の加工（赤青のフィルター、オーバーラップ、フェードアウト、ネガ反転等）と音楽的モンタージュにズレを伴う変調リズムの自作曲のコンビネーション、デジタル映像とドイツを代表する詩人ドゥルス・グリューンバインとのコラボレーション作は、観客を尋常でない視聴覚体験に耽溺させる。……**赤坂太輔**（作品解説、監督略歴も）

西洋の没落のためのエチュード

Studien Zum Untergang Des Abendlands

1979–2010年｜80分｜スーパー8→デジベータ
※台詞なし
制作・監督・撮影・録音・編集・音楽：クラウス・ウィボニー

オズワルド・シュペングラーの著書「西洋の没落」に想を得て、ニューヨーク、ルール、ハンブルグ、東アフリカ、リミニにおいてスーパー8カメラで撮影した6299カットの映像で作られた5部構成のインダストリアル・ランドスケープ・ムービー。工業地帯、都市、荒廃した自然の風景が赤青溶暗のうちに現れては消えていく映像を自作の曲が彩る。

シラクサ　Syrakus

2004–2012年｜77分｜デジベータ
制作・監督・撮影・録音・編集：クラウス・ウィボニー
朗読：ドゥルス・グリューンバイン

2004年以来続いている詩人ドゥルス・グリューンバインとのコラボレーション作品。古代と現在を重ね合わせる詩人自身による朗読と、ローマ、ペルージャ、クーマエ、シラクサ、マルティニー、リミニ、ファノ、スニオン岬、アテネの風景で構成された作品。

オープン・ユニバース

Das Offene Universum

1986–90年｜91分｜35mm
制作・監督・脚本・撮影・音楽・編集：クラウス・ウィボニー　出演：ティルダ・スウィントン、ハンス・ツィシュラー、クリストフ・ヘンマーリング

若い船員ロバート（クリストフ・ヘンマーリング）はアカプルコでフランク（ハンス・ツィシュラー）とカーラ（ティルダ・スウィントン）というカップルと出会い、彼らに雇われてフィジーへの船旅に出る。コミカルな宇宙論のイントロから始まり、破局的な海洋ラブストーリーと瞑想的なランドスケープ・ムービーの映像と監督によるナレーションとアンビエント・ミュージックが音楽的に交錯する。ニューヨーク近代美術館（MOMA）所蔵作品。

想像の美術館——モネのためのエチュード

Im Imaginaren Museum - Studien Zu Monet

2004–2014年｜103分｜DCP
制作・監督・撮影・録音・編集：クラウス・ウィボニー　出演：マイケル・スノウ

1882年から1897年にかけて画家クロード・モネによって描かれた北ノルマンディーの避暑地プールヴィルの風景画群を、現在もほとんど変化していないという実際の海岸の映像と重ね合わせる試みと、ジェリコー、デュシャンの絵画、風景を扱った実験映画の巨匠マイケル・スノウへのオマージュ、ウィボニー監督の友人でもあった故ハルン・ファロッキ監督に捧げられたフィルムエッセイでもある作品。

クラウス・ウィボニー　Klaus Wyborny

❖映像作家。1945年生まれ、ハンブルクとニューヨークで物理学を専攻。大学在学中に実験映画制作を始め、1968年に映画監督であるヘルムート・コスタールやウェルナー・ネーケス、ドーレ・Oらとフィルムメーカー・コーペラティブを創設する。その作品は「語りへの戦い」（ハルトムート・ビトムスキー／映画監督、批評家）と称され、ジョナス・メカスに絶賛された初期の話法的実験映画からティルダ・スウィントンやハンス・ツィシュラーら俳優と組んだ実験的な劇映画、近年の音楽構造的ランドスケープ・フィルム、詩人ドゥルス・グリューンバインとのコラボレーション、映画史へのアプローチ作品やインスタレーションまで多岐にわたる活動で知られる。
❖近作としてベートーヴェンへのオマージュ『ルードヴィッヒ・ヴァン・ベートーヴェンへのオマージュ』、シュペングラーの書に想を得た『西洋の没落のためのエチュード』、友人である映画監督ハルーン・ファロッキ（2014年没）に捧げられた『想像の美術館——モネのためのエチュード』、自作上映を見る観客を撮影した『世の光』などがある。またシカゴ、ニューヨーク、バルセロナ、リスボン等で作品が上映され、国際的評価が高まっている。
❖また、ニューヨーク州立大学、オハイオ州立大学、ベルリン芸術大学、マンハイム専門大学等で教鞭をとっている。

■スケジュール　※すべてBDでの上映

5月15日（日）｜神戸映画資料館

13:30　『西洋の没落のためのエチュード』
15:00　トーク1 **ウィボニー監督、赤坂太輔**（映画批評家）、**通訳：高木繁光**（同志社大学教授）
15:50　『シラクサ』
17:20　トーク2 **ウィボニー監督、赤坂太輔**（映画批評家）、**通訳：高木繁光**（同志社大学教授）

料金◉一般：1200円／学生・シニア：1000円　神戸プラネットシネマ倶楽部会員▶一般：1000円／会員学生・シニア：900円
《割引》当日2本目は200円引き　お問合せ◉神戸映画資料館　078-754-8039

5月17日（火）｜同志社大学寒梅館クローバーホール

日・EUフレンドシップウィーク　Events of May/2016
17:30　開場
18:00　『オープン・ユニバース』
19:45　トーク **ウィボニー監督、赤坂太輔、通訳：海老根剛**（大阪市立大学准教授）

料金◉一般1200円、会員（Hardience、神戸プラネットシネマ倶楽部）・学生・シニア1000円　※同志社大学学生・教職員（同志社内諸学校含む）無料
お問合せ◉同志社大学今出川校地学生支援課　075-251-3270

5月21日（土）｜アテネ・フランセ文化センター

15:00　『オープン・ユニバース』
17:00　『想像の美術館——モネのためのエチュード』
18:45　トーク「物理学的映画の見方」
ウィボニー監督、通訳：藤原敏史（映画監督）

料金◉一般1200円（2回券2200円）、アテネ・フランセ文化センター会員・学生・シニア1000円　お問合せ◉アテネ・フランセ文化センター　03-3291-4339

神戸映画資料館

神戸市長田区腕塚町5-5-1-201
アスタくにづか1番館北棟2F　Tel: 078-754-8039
info@kobe-eiga.net　http://www.kobe-eiga.net/
◉JR・神戸市営地下鉄 新長田下車、南へ徒歩5分
◉国道2号線（または高速高架）と大正筋商店街の交差点角のエスカレーターで2F

同志社大学寒梅館クローバーホール

京都市上京区烏丸通上立売下ル御所八幡町103
Tel: 075-251-3270　http://d-live.info/
◉地下鉄今出川駅下車、2番出口より北へ60m程
◉駐車場・駐輪場はございません。
公共交通機関をご利用下さい

アテネ・フランセ文化センター

東京都千代田区神田駿河台2-11　アテネ・フランセ4階
Tel: 03-3291-4339（13:00～20:00）　infor@athenee.net
http://www.athenee.net/culturalcenter/
◉JR 御茶ノ水駅「御茶ノ水橋口」出口より徒歩7分
◉JR 水道橋口出口「東口」出口より徒歩7分
◉東京メトロ丸ノ内線御茶ノ水駅　徒歩10分（出口は1箇所）
◉都営三田線水道橋駅「A2」出口より徒歩10分